

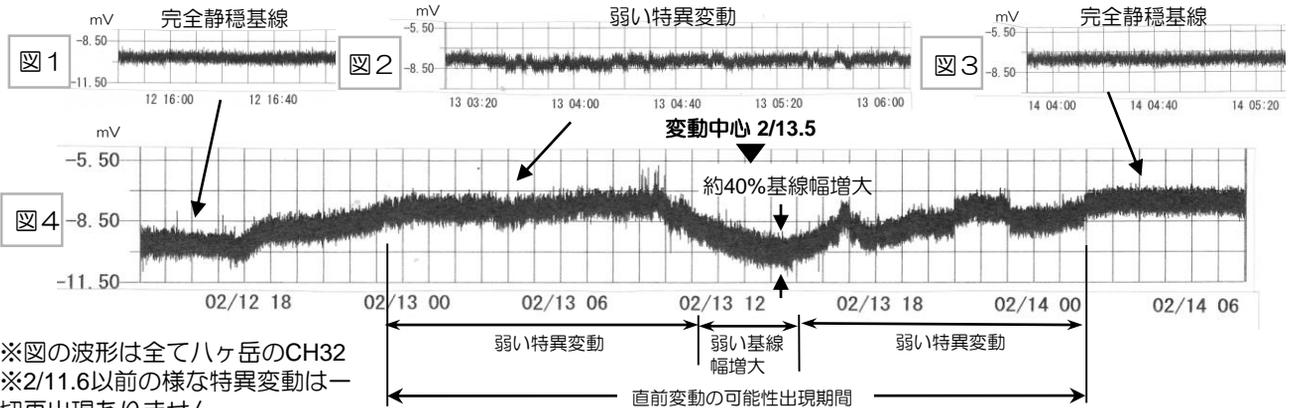
ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

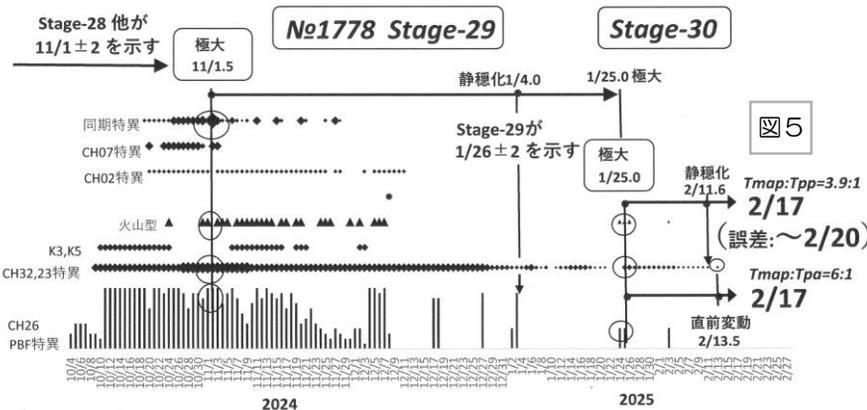
※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。2024年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

**No1778長期継続変動 2/13.5 CH32 微弱だが直前変動の可能性観測
対応地震 2/17 (誤差:2/17~20) 発生の可能性有**

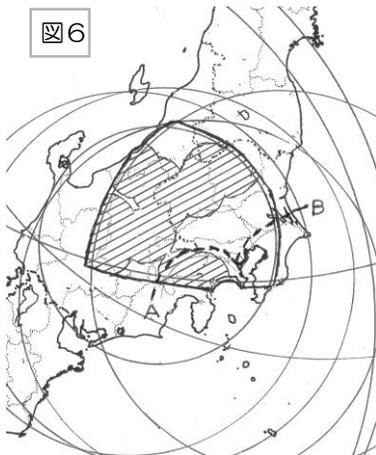


※図の波形は全てハヶ岳のCH32
※2/11.6以前の様な特異変動は一切再出現ありません。



◆1/25 極大認識が正しく、2/11.6静穏化認識が正しい場合は、2/17対応地震発生の可能性が示唆されました。この場合は、2/13.5中心に直前変動が観測される可能性を前情報に記しました。
◆図4のとおり、2/13昼頃を中心に静穏基線だったハヶ岳のCH32に極めて微弱な変動が観測されました。明確な変動ではないため、確度は高くありませんが、完全静穏基線と比較しますと変動が見えますため、直前変動の可能性を考えました。
◆2/13.5中心の微弱変動が直前変動認識が正しい場合は、対応地震発生は2/17の可能性が高いと推定されます。
◆30年の観測の中で初めて体験する16年7ヶ月に及ぶ長期継続前兆変動であるため、現在までの変動関係認識や、変動の解析、経験則との整合が正しいか否か自信はありません。2/17~20に対応地震が発生しない場合は再考します。念のため、最大限の注意をお願いします。

図6



●推定領域：図6の太線領域内＝大枠推定領域
図6斜線領域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または 複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性 (群発的な活動の可能性も有)
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：2月17日 (誤差:2月17日~20日)
(※仮に2/17~20に発生無い場合は 3/18±3 の可能性が考えられる。その場合は続報)

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震

A~B孤線以南の可能性は極めて低い ○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。